

伊勢湾貧酸素情報（第3報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

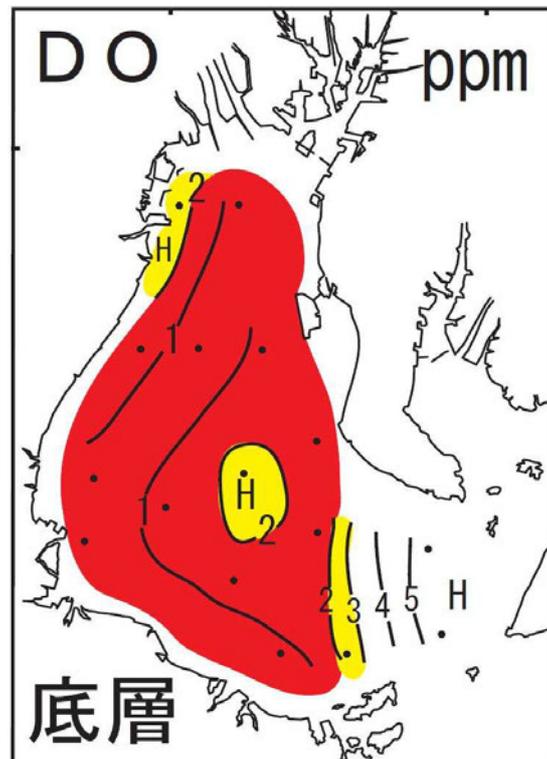
伊勢湾の底層では溶存酸素量が低下していて、湾口部を除く全域の広い範囲で2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

9月6日の調査結果

9月6日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で28.7～31.2℃、10mで22.4～26.1℃、底層で20.3～26.8℃の範囲にあり、表層ではかなり高め(平年値より4℃高い)、10mでは平年並みから低め、底層ではやや低めから低めとなっていた。塩分は表層で22.07～30.67、10mで31.87～33.14、底層で28.76～34.25の範囲にあり、表層では平年並みからかなり高め、10mでは平年並みからやや高め、底層では平年並からやや高めとなっていた。

DO(溶存酸素量)は表層で6.4～8.9ppm、10mで2.2～6.9ppm、底層で0.2～5.3ppmの範囲にあり、表層ではほぼ平年並み、10mではやや低めからやや高め、底層では湾口部と四日市前を除く伊勢湾全域で2ppm以下の貧酸素水塊が形成されていた。

表層で高温傾向、底層では低温・高塩分傾向にあるため、上下混合が起こりにくく、当分の間、底層の貧酸素化が解消するとは考えにくく、今後も貧酸素水塊の動向を注視する必要がある。



底層貧酸素水塊分布